広報 いまかね

民主主義に徹し生活を合理化して近代的な町にいたしましょう。（町民憲章より）

’77年

ことしも元気で

1月号

〈写真＝エィエィオー！と元気いっぱいの今金保育所の子どもたち〉

No. 223

公営住宅敷地購入費など

一般会計　一億一千万円を追加

第4回定例町議会

第四回定例町議会は十二月二十二、二十三日の二日間開かれ、一般、三特別会計補正予算、町職員給与条例の改正、学校給食センター設置条例など議案十六件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

なお、豊寿園設立等に関して特別委員会から調査報告があり、それに対して町長から「事務的取運びの不充分から関係機関に多大の迷惑をかけ町の信用を失墜した責任の重大さを深く反省し、議会をはじめ町民に深くお詫びする。今後の運営は自ら理事を辞退し、施設の機能を充分果すよう努力する」との陳謝がありました。

この議会で決まったおもなことは次のとおりです。

◇一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ一億一千五百四十七万九千円が追加され、予算総額は二十億六千五百四十二万三千円になりました。

追加のおもなものは、公営住宅敷地などの公有財産購入費に三千五十五万円、第二次農業構造改善事業補助に二千五十四万一千円、町職員の給与改定に伴う人件費に一千六百二十八万七千円、備荒資金積立金に一千二百三十四万八千円、公債費償還金に八百四十万円、檜山広域消防組合負担金に二百七十一万四千円、除雪機械借上などに百五十万円、雪上車修繕料に八十三万四千円、幼稚園舎修繕料に四十五万五千円、豊田線地質調査委託料に四十一万七千円などとなっています。

また、高校線舗装工事など七件で七百八十六万円、山村地域農林漁業特別対策事業補助二百八十四万二千円、心土破砕事業補助百八十万五千円などが減額されました。

これに対し歳入は、地方交付税六千万円、町債二千六百二十万円、道支出金二千九百六十七万六千円、町税三百四十四万三千円、国庫支出金三百十二万三千円などが見込まれました。

◇国民健康保険会計事業勘定補正予算

高額療養費負担金に七百八十九万九千円と人件費など三十二万八千円が追加され、予算総額は三億五千一万九千円になりました。

◇国民健康保険会計施設勘定補正予算

薬品費などの材料費に五千六百八十五万円、人件費に千四百六十六万二千円、医業経費に三百三十万八千円が追加され、支出総額は四億四千三百三十八万一千円になりました。

◇簡易水道事業会計補正予算

水道基金繰出金に百三十万円、公債費償還金に百十二万八千円、人件費に百二万九千円などが追加され、予算総額は七千五百六十三万円になりました。なお、歳入では簡易水道整備事業費四百三十万円が見込まれたため、一般会計からの繰入金七十三万一千円が減額されました。

◇町職員定数条例の一部改正

教育委員会事務部局の職員定数を十人から九人に、学校その他の教育機関の職員定数九人を十二人にするものです。

◇町職員の給与条例の一部改正

人事院勧告による国家公務員の給与改定に準じて、町職員の給料が平均給料月額六・七%引き上げられました。なお、期末手当と勤勉手当の支給率がそれぞれ百分の十づつ削減されました。

◇今金町学校給食センター設置条例の制定

学校給食センターの建設に伴い管理、運営に必要な事項を定めたものです。

◇鈴岡会館設置条例の制定

鈴岡に建設された会館の使用条件などを定めたものです。

◇町道の路線認定

花石東一号線など七路線約三㌔が新たに町道に認定され、種川線四㌔などが廃止されました。これにより町道の総延長は二百二十路線二百六十㌔となりました。

◇人権擁護委員の推薦

任期満了に伴い中村徹昭さん（46歳・南町）が再任されました。

◇陳　情

中種川地区原口準一と阪井光夫間の鉄道踏切拡大と八東地区道営かんがい排水事業測量調査費助成についての陳情は、建設、産業常任委員会に付託されました。

◇請　願

今金営林署分会からの「農山村の過疎化解消と白ろう病絶滅」についての請願が採択されました。

一般質問

この議会で町政に対して曽我井議員、日下議員から一般質問があり、町長が回答しました。おもな内容は次のとおりです。

◇神丘地区チョボシナイ川の水害対策として

河川改修を＝国鉄の橋台二カ所の改修は経費面で負担が多く困難なので、国営かんがい事業の右岸改良計画の変更時に国営排水整備事業として配慮願うよう取り進めていきたい。

◇過疎対策として工場誘致も当然考慮すべきだが経済情勢から実現は困難なので、自衛隊を誘致する対策は＝過疎対策の一つとして考えられるが町民の世論の動きをみて対処したい。工業誘致は着任以来苦慮しているが、今後とも立地条件を踏まえながら努力したい。

◇農業後継者対策として開設した結婚相談所の強化を＝開設以来相談員の協力により大きな成果をあげてはいるが、なお、きめこまかに各町村に出むくことは経費面で困難だ。関係者では毎月一回会合を開き連絡を密にし、具体的な案を伺いながら進めている。

◇神丘地区の飲用、農用水施設の見通しは＝具体的に調査しているが簡水と農業用水のだき合せに苦慮している。五十二年度の畑地かんぱいの計画変更により具体化していきたい。

◇部落保育所の助成増額を＝町営保育所の開設は十名以上という基準で美利河、花石地区は部落営でお願いし、弱冠の経費を負担願っているが、現在、七八%程度の補助率も物価や報酬の引き上げを考慮して助成している。

◇町内のゴミ置場の散在が目だち改善が少ないようだが＝改善に対して三分の一程度の補助を出しているが設置場所がないことで未設備が多い。地域ぐるみの衛生意識の高揚を図り改善するよう指導したい。

◇辺地における防火用水の確保を＝地域住民の防火意識の理解により用水施設の位置を早めに確保することは必要だし、住民の協力によって整備もできる。なお、消防支署で斡旋する消火器は必ず各戸に設備し初期消火に努めてほしい。

◇狭あいな住宅でも使用できる組立式葬儀場を備える考えは＝生活改善の趣旨は理解するが、狭あいな場合は各地の集会場を利用する方法もあり、どの程度必要あるか検討したい。

行政全般に対する要望のおもなことは次のとおりです。

▽道々八雲―今金線の今金橋付近の防雪さくを完備して＝途切れている部分の設置を要望する。

▽美利河線に砂利を敷いて＝町道路線は常時補修していく。

▽国道二七七号線住吉―種川間の道路改修を＝調査の終了に伴い早期改良を実施するよう要望する。

▽光台のスキー場に駐車場を＝道路上に駐車しないよう土地所有者の協力を得て整備したい。

▽光台地区の除雪は集乳車が入る前にしてほしい＝委託路線になるので要望にそうよう努力する。

▽中央線の街路灯に町費助成を＝全町的な問題もあり検討したい。

なお、今金警察官派出所長から冬の交通安全のお願い、体協会長から部落住民に対して体協組織に加入願い町ぐるみの体育振興を図りたい旨の依頼がありました。

町内部落会長会議

種川の国道改修など

活発な意見や要望

部落町内会長会議は、十二月十七日消防庁舎に約七十人の代表が集まって行われました。

町長から「本年度の投資的事業は町単独事業の実施で総予算の四五%に達した。来年の財政も苦しいが、効果的に執行したいので町民の要望を知らせてほしい」とあいさつ、そのあと次のような所管事項の説明がありました。

▽教委から＝学校給食は明年四月に開始するので一月中に校下父兄と懇談したい。

▽福祉課から＝町民の協力により日赤募金四十一万一千円、赤い羽根募金三十六万九千円の収納があり目標額に達した。

▽企画課から＝明年の開基八十周年記念行事で七十歳以上の老人を一同に会して〝敬老のつどい〟を実施したいので地域の賛同を願いたい。

善意に感謝します

◎歳末助け合い

町内の忘まれない人々に少しでも暖かい手をさしのべようと町では、町内会、部落会を通じて歳末助け合い運動を展開しました。

この結果、次のように町民のみなさんから多額の善意が寄せられました。

▽町内会＝二十一万九百六十円▽部落会＝二十万三千二百七十八円▽団体等、▽日赤奉仕団今金支部　一万七千六百円▽今金町たばこ販売組合婦人部　一万五千百二十円▽今金消防職員互助会　一万七千七百九十八円▽今金建設協会　十万円▽今金ライオンクラブ　三万円▽荒良木寛資さん　千円＝計二十万一千五百十八円

総額六十一万五千七百五十六円

これらは、福祉施設の入所者四十四人に各四千円、光の里学園（六人）に各四千円、豊寿園（三十二人）に各四千円、生保町外長期入院患者十九人に各四千円、町内長期入院患者六十七人に各三千円、生活保護世帯七十一人には町費から各五千円がそれぞれ贈られました。

◎愛情銀行から

▽金銭預託、払い出し

▽山口学さん（花石）から九千十八円を光の里へ

▽今金町職員組合（委員長橋本勉）から五万五千七百六十四円を光の里と豊寿園へ

▽大倉啓太郎さん（昭和町）から一万五千円を光の里、豊寿園、今金小百合保育園へ

▽みのや商店（河村昭夫・八幡町）から町内の歳暮をやめて四万円を光の里と豊寿園へ

▽今金日石KK（川村正夫・栄町）から五万円を豊寿園へ

▽今金オートKK（川村正夫・栄町）から三万円を光の里へ

▽朋橋精次郎さん（南栄町）から埼玉県より里帰りした記念に二万円を豊寿園と光の里へ

▽物品預託、払い出し

▽荒井彦五郎さんから衣類三十点を町内の生活保護世帯へ

▽日赤奉仕団今金支部（代表伊藤トミノ）からおしめ百三十五枚を豊寿園へ。タオル八十八枚、雑布九十枚、みかん一箱を光の里へ＝それぞれ寄付しました。

今金の昔を語る

出席されたみなさん

岩間　キサさん（栄　町）
宗像　朝司さん（美利河）
曽我井　定一さん（神　丘）

河端　豊町長
今野　伝議長
司会　吉田企画課長

町長・議長を囲む　“新春座談会”

八十年のあゆみから

明日の町づくりへ

昭和五十二年の春を迎えました。自然の恵み豊かに伸びゆく今金町は、祖先ののこした開拓精神と郷土愛とを受け継ぎ、明るく住みよい町づくりに励んでいます。

ことしは開基八十周年のとしでもあり、三人のみなさんと町長、議長に、町のあゆみをふりかえって苦労話しなどを語ってもらいました。あすの町づくりのために…。

町長　みなさん新年おめでとうございます。本町は、ことし開基八十周年、町政施行二十周年を迎える記念すべき年です。今日は八十年のあゆみのなかでご苦労なさったみなさんと昔ばなしや伸びゆく町づくりのためのご意見などをお聞かせ願いたいと思います。

みんな色つやがよい

岩間さんは高齢者健康コンクールに出場しただけあってお元気ですね、今年で何歳になりました。

岩間　私もしらずしらずに八十をこしました。明治二十六年ですから八十四歳。大正十二年に今金に来て五十五年にもなります。

曽我我井　私は、この正月で八十歳。七十古来まれなりということを教えられていたので、十年もうけたしあわせ者と思っています。十歳の時升羽から来て七十年です。

宗像　私は明治二十八年生まれで八十二歳。小さい時札幌に行き八つのとき美利河に学校ができたのでふる里に帰ってきました。

町長　いやあーみなさんは、私からみても顔の色つやもよく耳もしっかりして八十歳とは思われない健康そのものですね。私は六十五歳でそろそろ老人クラブの仲間入りというところです。（笑）

議長　町長と同じ今金産で、大正五年生まれ、やっと還暦《こよみは六十年で一回りする》を迎えたとしになりました。出席の曽我井さんのあとを受け今年で議長二期目。八十周年は開拓された先人先輩のご苦労、ご努力のつみかさねで今日の今金ができ、そのあとをつぐ者として責任の重大さを認識しながら町政に参加させていただいています。

町長　町内にはまだ多数町づくりに貢献された方々がおり、本町八十年のあゆみにあたり心から感謝申しあげます。

砂金堀りの地図がある

—いまかねのあゆみのはじまりは寛永十一、二年頃（一六三五年）砂金を採取したのが、本町の草創といわれますが。

町長　町史では、安政年間に箱館奉行が鉱山開発のため美利河、花石に役所を置いたとあるが。

宗像　明治二十九年ころイギリス人のウイルソンという人が経営していたマンガン鉱山が全盛で、ひとっきり二千人ほどの坑内外夫が働いていた。その人が国縫まで鉄レールを敷いて大々的に馬鉄という名称で鉱石を運んだ。

議長　その頃トンネルはどうでしたか。

宗像　トンネルはなく馬に乗せたりして山越えし、今の茶屋川の玉川さんが居るところに一日二回運び、そこから国縫まで一頭の馬でトロッコを引っぱって運んだ。

曽我井　明治四十年ころかしら引っぱっているのを見たが。

宗像　函館本線が開通する頃からだんだんださなくなった。全盛のころは一俵一六貫のカマスに五十俵位づつトロッコに積みこまれていました。

町長　そのころ砂金堀りはどうでしたか。カニカン金山など。

宗像　私の父も忠志別の出口から大平さんの提防にかけてやったらしいがあまり出なかった。明治の初めに雨宮敬次郎が珍古辺（花石）に砂金鉱を堀った。

曽我井　雨宮の自叙伝では、明治十年頃美利河に来て六十人位の人夫を雇い笹を苅ってさがしたが、かなり前に堀ったあとで失敗だったと記されているね。

議長　属にいう日光の東照宮に砂金が行ったという経違があるから相当な量がでたのでしょうね。

宗像　今年佐渡の真野町の社教主事が八雲の大島さんをつれて私の家を訪ねてきた。最近佐渡で見つけたという四、五尺の和紙に手書きした砂金採集の地図を持ってね。「サレ」という砂金採取の指導者が五人ほど利別川に来た人が書いたというが、賀老の滝や黒岩の沢、広田さんの付近も「中ス」と書いてあり二階建の家もある。「サレ」という指導者五人を頼んで堀った時代だから日光東照宮に砂金を送った頃の図面ではと思う。

宗像朝司さん

議長　そのような貴重な図面は砂金の歴史としても町で保存しておきたいですね。

昭和36年頃、水田づくりのための軌道客土は御影から神丘へ

八雲から歩いて帰った

—交通のお話しでなにか想い出を

曽我井　青年時代を考えると現代の生活はよくなりましたね。兵隊で麦六米四の割合が半々に見え、一生百姓をやるなら、この位の生活ができるよう頑張らなくちゃあと思った。自家用車で送迎してもらうなど夢にも考えなかった。この時代でも道路が悪い、何が悪いと町長に要望する。大変だなあ。

宗像　今の人達は歩くことがすくないですね。私はよく美利河から種川、神丘まで一泊どまりで歩いたものです。

曽我井　昭和五年頃、今金—国縫間の鉄道が開通し、八雲まで汽車で行き競馬を見て八雲から歩いて帰ってきた。

町長　八雲から白石経由の道路は、明治三十四年に開かれ八雲方面から毎年三月から瀬棚方面の鰊場に出稼ぎする人が三百人ほどいて、夜通し歩いたそうですが。

宗像　国縫—瀬棚間に小西長蔵さんの乗合馬車が走ったのは明治四十三年頃、昭和四年に国縫—花石間の鉄道が開通した。

—岩間さんは、本町の助産婦第一号ということでご苦労されたと思いますが…。

岩間　助産婦を開業して四十七年間あちこちを走り廻りましたが、開業当時の田舎のお産は原始的で、驚いたものです。お産を無事に終らしてお湯の用意を頼んだ時、漬け物樽を持ってきたりしまして、小さな赤ちゃんをたてて使ったり、石けん、脱脂綿、さらしなどはまったくなく、みんな持参したものです。出産の姿勢も判らないのか張り板に縄をかけてウナっていたことがあり驚きました。

議長　昔は資格のある助産婦を頼む家はすくなく、地域に取りあげ婆あさんがいたりして……

岩間　私が行くと必ずいましたよ。その都度、応急手当法や衛生面を教えて帰ってきました。農家はすぐ近くだからというが、いつも遠いので困りましたよ。冬は馬そりに乗せられ、とくに、私は産婦に心配かけまいとしてよく走って行きました。そのためでしょうか、こうして健康でいられるのは。

町長　そうですね。若い人も年寄りも身体を動かすのが一番よい。

岩間　なんせ忙がしく苦労しましたが、道長官から公設産婆の認可を受け、年に六百円のお金を頂だき三百円を役場に寄付したものですよ。夜の応診が一番つらく、水上さんのハイヤーが走る頃は助かりました。

岩間キサさん

議長　昔は交通も不便で大変でしたでしょう。

岩間　瀬棚線が開通しても美利河へ行くのに一日がかりで、鉱山のトロッコに乗せられておそろしかったこともございます。

麦とトウキビが主食

—町の基幹産業である農業をふりかえってなにか。

宗像　七十年前は田がなく麦と主食はトウキビを食べた。トウキビはあごがだるくなっていつも腹いっぱい食べられない。（笑）ご馳走はソバきりでしたね。

岩間　街の人達も大変なようでしたよ。お米は高いしヒエのご飯を食べていました。私は玉子二個位を食事の替りにしたことも。

町長　神丘で一番最初に水田ができたのは何年ごろですかね。

曽我井　大正五年頃天沼さんが水稲をつくったらしいが、大正九年にかんがい用水ができた。当時は大豆一俵が二円五十銭位いで、それで補助も借入れもしないで用水を自費でつくった。先人は違いと思いますね。

宗像　昔は、米が九円位で大豆が三円二十銭。私は大豆を作って米を買うには採算があわなく五年

でお手あげしたことがある。

曾我井　農業の町である本町はもう壁にぶつかっていると心配している。それは馬鈴薯の問題ですが、今年は昨年の半値で赤字だ赤字だとこぼしている。北海道で生産する馬鈴薯は澱粉原料が八割で食用いもが二割、私の時代は澱粉用に紅丸を作っていたが、紅丸に変って男爵に劣らない農林一号などの新種が改良され、食用市場に流れ、食用専門の今金男爵はたまらない。ですから今年も安ければ売れるが高値は望まれない。

曾我井定一さん

岩間　毎年東京に行きますが、ジャガイモは高いですよ。一個三十円から五十円です。北見産とか今金産もあり、今金産を買う。

議長　今年は馬鈴薯も野菜も豊作で、市場はみんな安い訳です。

曾我井　函館の知人は一町六反大根を作り六反は売ったが、一本十円にも売れないから一町分は土にいけてある。それがみんなそうやっているという。

町長　現在、農業経営の拡大として東部地区に四百㌶の畑地開発をやろうと計画していますが、農家も新しい角度で真剣に農業を考えてもらわなくては、むづかしい問題ばかりですからね。

曾我井　畑作の人は、ことしの作付に迷っています。農協でも種いもを配給しているが返上が多く困っている。馬鈴薯をやめて何を作るか。大豆は二千円位の奨励金があるらしいが三俵でも三万円位で小豆の一俵分。やっぱり牛が一番よいのではないかね。

高校の統合は大失敗

町長　特産物でも収入につながらなくてはなんにもならない。

ーお話はつきませんが、行政関係や町に対する要望などありましたら。

曾我井　長い議員生活を振り返って取り返しのきかない大きな失敗をしたと思うことは檜山北高の統合です。　昭和二十三年に今金高校を道立に移管する際、北檜山とどれだけ競走したかを考えると檜山北高の統合はあまかった。当初神丘になると欲をおこし基本的に統合に賛成したが、瀬棚の議長の丹羽予定地なら賛成とする策で三対一で負けてしまった。今になって考えると、現在、百七十の道立高校がある内三分の一の学校は、生徒が五百人以下だという。今金は当時六百人位いたのですから、立派に独立高校の資格があった。

地元であれば歩いて通学できる生徒が三百人ほどいる。通学費に最低三万円かかるというから三百人で九百万円が永久にかかる。これは大きいですよ。北檜山市街地の人も失敗したという。お互いに統合しないといえば良かった。かえすがえすも残念と後悔してます。

町長　広域消防組合も、二組合でもめましたが、結局、一組合になった。

岩間　北檜山町には母子健康センターというお産施設がありますが、地元にないのでみなさん不便だといつも考えていますが。

町長　若い主婦などから要望されており、町としてもいろいろ考慮しています。また、歯科を国保に設置してほしいという問題もありますが、国保病院の改築計画と医師の確保により解決したいと考えております。

河端町長

曾我井　年寄りなってみないと年寄りの気持は判らないといいますが、私も老人クラブでみなさんの話しを聞くなかで、「年一回の大会でよい講師の話しを聞くが、よい話は今の主婦に聞かせてほしい。という」昔と違ってしゅうとの権威はかなりおちている。やはり愛情をもって年寄りをいたわってやれということは、婦人会あたりで充分話しをしてもらう必要がある。総合体育館で何かやるといっても神丘は一番近いが、他は遠いので参加しない。

議長　昨年体育館での老人のレクレーション大会は大変楽しかったという意見もあり、年一回ぐらいは良いと思います。

曾我井　森町の濁川温泉では、月一回老人に無料で開放し、町の車が送迎しているという。神丘でも今年、教委のバスで町内視察をしながらふとろ荘に遊びに行ったが、みんな喜んでいました。

議長　老人の対応の方法ですが、経済的な問題や精神的な面もさることながら、社会教育の充実と一般家庭でも同じですが考え方が変らないとなかなか容易でない。

町長　各地域の集会施設も年次ごとに整備し、今年は八束地区に生活改善センターを新築し、五十三年には白石地区も実現したいと考えています。また、体育振興のために部落の人も市街地に出向いてこれるようにスポーツ巡回車を走らせる考えもありますので、健康づくりを大いに進めてほしい。

議長　議会の立場では、住民の意志を町政に反映させる機関ですが、議会に対しての要望はすくない。反省してみて、これは議会機能を十分発揮されてないのではないかと思う。住民のよりどころを把握しながら最善の努力をしますので先輩のご協力をお願いします。

今野議長

曾我井　私はこう思う。我々子どもに物を買ってやる時に、子どもが何をほしがっているか、子どもにせがまれなくても判る親がかしこい親心ですね。（笑）

町長　これは厳しいご意見で恐縮しますが、なんせ財布はみなさんに握られているのでどうも。（笑）

まあ、町民みなさんのご要望にそえる明るい町づくりを進めますので、どしどしご意見をお聞かせください。

ーたいへん熱心な話し合いで、まだ意見もあると思いますが、このへんで終らせていただきます。

私の選んだ道

毎年一月十五日の成人の日にテレビ放送されているＮＨＫ青年の主張全国大会の函館地区予選は、昨年十一月十四日、道南から十四名が参加して函館放送局で開かれ、今金町の上田喜三男さん（白石・22歳・農業）が優秀賞を受賞しました惜しくも全道大会には出場できませんでしたが、本町から初出場で入賞した健闘をたたえ、その主張を紹介します。

第23回ＮＨＫ　青年の主張から

上田　喜三男さん

私は現在、水田を中心に肉牛を取り入れた複合経営を行っています。長男の兄が、七年前に農業以外の職業に進んだため、小さい時からよく家の手伝いしていた私はごく自然に農業で生きようと心に決めていました。

そんな私なので、農業高校を卒業する頃には、農業に対する悲観的な考え方は無縁なものに思えるほど将来への夢や希望は多く、それは、自分の努力いかんでは、実現の可能性も大きく広がるものと信じていました。

しかし、現実、土に接する生活は、私が予想した以上に厳しく、安易に私の夢をかなえてはくれませんでした。それゆえ、心のやすらぎを読書や友に求め、若いエネルギーを青年会活動や学習活動に向けていたのでした。

しかし、私のまわりには、私よりも、悪条件の中にあるにもかかわらず、青年としても、農民としても、心にゆとりのある生き方をしている仲間の多いことを知るにつれ、このままではいけない、私は農民としての何か大切なものを忘れているのではないかと考え、現実の農業の厳しさから逃避していた自分の弱さを、また、私をそうさせていたものについて深く反省しはじめたのです。

そんな私にとって、今年の凶作は大きな教訓ともなったのです。

それは、私に人間の力を越えた自然界の厳しさを感じさせる反面我が家では、今までになく収量も少なく質の悪い米しか生産することが出来なかったということを、素直に反省させてくれたからです。

以前の私ならば、この問題を経済的な減収としてしかとらえることができなかったでしょうが、今は違います。私は、農業をあらゆる人々の生活の原点とも考え、より安全に、より確実に、量よりも質といった消費者の立場に立った生産をすべきと考えるようになっていただけに、今年の結果が逆になってしまったことに、私の努力の足りなさを痛感するとともに、心は重くなるばかりだったのです。

しかし、いま私は、この教訓を我が家の反省として、また、私の生涯の課題としてしっかりと受けとめてゆかなければならないという、新たな意欲に燃えているのです。そのためにも、専門的な知識を更に高めてゆくことはもとより父たちの長い経験と一緒になり、家族みんなで我が家の経営に対する取りくみ方を考えなおそうとしているのです。

そのひとつとして、質の悪い米の原因が、単に気象条件や立地条件だけの問題としてとらえるだけでなく、我が家の水田の地力そのものや、農薬や除草剤、また、機械移植などによる影響か、更に稲の成育を遅らせたのではないかという考えもしております。

それは、農業経済そのものが急速に近代化されたことを指摘しようというものではなく、そのことによって、家畜や作物や土そのものに心をこめて接するという、農民としての心そのものまでが金銭的なもので判断しがちになりつつあることへの反省なのでした。

今日の我が家が、水田九㌶、草地、畑地五㌶、ひと通りの機械化体系や施設設備がととのい、経営基盤が確立されているのも、七十年に及ぶ我が家の歴史があるからであり、ここまで築きあげてきてくれた父母たちに尊敬と感謝の気持ちをいだかずにはいられません。

私は、この我が家の歴史を守り続けて行くことへの意義の深さと幸せをしみじみと感じているのです。それと同時に、そのことが単に個人的な利益の追求だけに走ることなく、農業の社会的役割を重視した経営を続けて行くためにはこれからも厳しい現実と多くの課題とを一つずつ克服して行かなければならないと覚悟しております。

誰にとっても、永遠のテーマともいえる「生きることの価値」と「人間としての真の豊かさとは何か」を、私は、みせかけの豊かさにまどわされることなく、農業の中に私の道を求め続けて行くのです。

20歳になったら国民年金に加入しよう

※保険料（定額分）月1,400円（４月から2,200円）
（附加年金分）月　400円
※年金は65歳から支給されます。
○サラリーマンの奥さんは希望により加入できます。

議会だより

豊寿園問題を振り返って

昨秋頃から年末近くまで豊寿園の建設に絡んだ町補助金、役員の寄付金のこと等で巷の噂が取り沙汰されたり、新聞報道で読まれた方がおられるでしょう。

事実、町議会で議題となり特別委員会で実情が究明され、この結果不正事実はないが行政執行上の問題点を指摘された結果昨年十二月の定例議会に於て町長は陳謝し正副議長は遺憾の意の所信表明を行って、町としてはこの問題に終止符を打ちました。

ではこんな事態に何故？、原因、経過、結末等について説明いたしましょう。

●問題の焦点

豊寿園の建設費の内、役員九名の名義の寄付金合計一千八百五十万円は、町補助金で充当されていたこと（肩代り）。

寄付金が役員の自己資金でなく公費である町補助金を使ってなされたのはおかしいではないか、という疑問、指摘であります。尤もです。表面上の形の上からの全の流れを見れば。

事実はどうなのか？。

結論を端的に申すと、役員が出した形の寄付金は、豊寿園を社会福祉法人（法人と略称）立で建設、運営するため、まず法人設立の認可を厚生大臣から得なければなりません。この法人設立認可条件の一つに役員寄付のことがあったので「便法」として、町補助金の一部を役員の寄付の形に変えた訳です。

●なぜ、このような便法をとったのでしょう

これには次のいきさつがあったからです。

昭和四十八年四月、町は福祉対策向上の一環として現在の豊寿園を町立で建設する計画を樹てました。以来、先進市町村の公私の施設を調査検討していくうちに、国保病院のように「町立」で建設運営していくよりも「法人」立で建設し、運営するほうが町としては二大利点があると判断されるにいたりました。

一点は、建設費（約二億円）の資金として、国費等補助金と融資制度があり、残不足分約三千三百万円（物価上昇で後では約二倍）が町費で賄う計算でしたが、町立でなく法人立にすると、融資が大幅増となるため、町費（補助金）が半額で済む見込。

二点として、町立で建設すると将来多数の町職員を要し身分保証の問題や管理運営の面で容易でないと予想されます。

只、光の里と違い民間から盛り上ったものでなく、町行政の一環として法人の姿形を借りることが必要で色々な手順や複雑な事務作業が伴いました。

繰り返えします。町が建設するが、制度、形式上法人の形で進めたのです。従って四十九年三月に法人設立総会を開催するに当っても、その母胎となる発起人約数十名は、町長、議長連名で各団体、各層の方に依嘱し、役員を選出してもらいました。厚生大臣宛の法人設立認可申請事務も町所管課で進めたのです。

また、当然これに前後して町理事者は議会、議員協議会、諮問委員会、法人役員会等で逐次この間の事情、考え方、更に補助金計上等について提案説明をして議決、了承を得ています。

従って法人役員個々の方々にも、経済的に負担をかけない旨も言明しておりました。

●法人認可条件の行政指導と町補助金、役員寄付金の関連について

法人設立認可事務の段階で、認可条件の一つとして総事業費の約一割程度は役員の寄付が必要である旨の行政指導を受けました。然し、これまで述べたような、当初からのいきさつがあるので、便法として町補助金の一部を、結果的に寄付金の姿に変える作業を進め、四十九年十一月に認可を受け、五十年三月工事完成、四月オープン現在にいたりました。因みに豊寿園の運営費年額約八千万円は国からの交付金で賄なわれています。

●論点と結末について

今更申すまでもなく、行政は複雑多岐を極め、法の解釈運用も画一的に断定し尽せぬ微妙且つ多面多様性を有して居ります。町議会特別委員会は昨年十月八日より十二月十七日にいたる三ヶ月間、関係方面から詳細な資料提出を求め、また、関係参考人等よりも事情を聴取し慎重審議を尽しました。

結果として

一、昭和五十年度の一千八百五十万円の町補助金は必しも正当とは判断されないが、大所高所から豊寿園建設運営のためには止むを得ないものと認める。

（町補助金の一部が寄付金の形にすることまでの内容は議決対象でなかったため）

二、豊寿園の適切な運営のため町の指導を強化されたい。

三、町内外に問題が流布され誤解を招いた点で町理事者の責任と法人の前役員であった議長、現役員の副議長も夫々の立場で強く反省を求めたいと共に、当時の議員も反省自戒すべきであるとして議会に報告、了承された。

○この結果、町長は議会に於て陳謝、正副議長は遺憾の意を表してこの問題の締めくゝりとなりました。

紙幅と問題表現の困難性のため意をつくせない点が多いのでありますが、これを契機として更に町民各位の町政に関する深いご理解をお願いしまして報告といたします。

雪路の交通事故防止

子どもの路上遊びに注意を

寒さがいちだんと厳しくなり、積雪や路面の凍結によってスリップによる追突、横転などの交通事故が起きています。とくに、ことしは天候異変で暖気や集中降雪のため、車の窓ガラスがくもったり、前方の視界が悪く、対向車との正面衝突など、直接死亡事故や大きな事故につながっています。

さらに、歩行者は防寒衣を身につけているため、動きがにぶくなったり、耳をふさいでいるため車の接近に気がつかなく、歩行車被害の交通事故も多くなっています。

今金町では、とくに一月～三月に交通事故が多発します。お互いに次のことを守って交通事故を防ぎましょう。

下り坂はエンジンブレーキで減速を

▽ 雪路での急発進、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。自動車は思わぬ方向に動きますので、安全な速度と方法で運転してください。

▽ 道路の両側に雪が積っているときは、見透しが大変悪くなりかげから、歩行者や子どものソリが飛び出すことを予測し、徹底した安全確認と、あらかじめ速度を落しての安全な通行をしてください。

▽ 幼児や小学生の路上遊びは危険です。とくに、スキーやソリで遊んでいる子どもがいたら、やめさせましょう。

少年の非行防止

冬休みになりますと、子どもたちの生活は〝解放感〟〝気のゆるみ〟が重なって非行につながる場合が多くなります。

子どもに対する思いやりと、過保護は違いますし、信頼することは、〝うちの子に限って〟に代表される盲目的えこひいき的愛情とは、まったく別のものです。

接触時間の多い冬休み中こそ、子どもたちとよく話し合い、なんでもよく相談しあえる家庭環境をつくりましょう。

家庭教育シリーズ

本当の教育ママさん

他人の前でも、わが子の長所をほめてやろう

お正月など、どこの家庭でも来客や、人の出入りが非常に多くなる時期になったが、日本人は昔から人前では自分の子どもを卑下して話すのを、美徳のように考える習慣がある。

たとえば、ヘヤに通された来客がその家の子どもを見て「おとなしい、よいお子さんですこと」とほめると、その母親は、「いいえ、どういたしまして、人さまの前では、こうしておとなしくしていますが、私が一人の時は、わがままで強情で、始末におえない困り者でございますよ」と、謙遜してあいづちをいうと、客のほうでは「でも、お丈夫でお強いのが何より結構でございますわ」と、お世辞をいう。それに答えて母親は、「いいえ、これで年中どこか痛いとか、なんとかいうて泣いてばかりで、内べんけいの意気地なしなんですよ」という。

このような会話は、子どもの人格を傷つけ、自尊心をそこねて劣等感を植えつけるから、はなはだ好ましくない。

それよりはむしろ、来客が「すなおなよい子」とほめてくれたら、すかさずそれを利用して「この子はよく私のいうことを聞いてくれて、いつもお使いなど、早くて間違ったことがないので感心です」といったふうにその子の長所を取りあげて、客の前でそれを認めてやるくらいにすれば、子どもにとってどれくらい励ましとなり、心を積極的にゆり動かすか知れないでしょう。

（神丘小学校長）

■水道の水抜きをお忘れなく

1月は冷えこみがきびしくなり水道の凍結修理が多くなります。

お出かけのとき、おやすみ前には、戸じまりや火気点検とともに必ず水道の水抜きをしましょう。

■農業基本調査に協力を

北海道や町の農業の経営実態を明らかにし、今後における農政諸施策に必要な基礎資料を得るためことしも2月1日現在で農業基本調査が行われます。

調査の対象は、農家及び農家以外の農業事業体で、耕地面積が10アール以上を経営する世帯と調査期日前1年間に農業生産物の総販売額が7万円以上ある世帯となっています。

調査員が各世帯を訪問しますので、調査の趣旨をご理解の上ご協力願います。

■北海道立農業大学校の学生募集

北海道立農業大学校は、農業を志す青年に、農業に関する高度な知識と技術及び経営能力を修めてもらい、近代的農業を担うのにふさわしい人材を養成するために設立されたものです。

昭和52年度の酪農畑作経営学科を次により募集します。

▷応募資格　高等学校卒業者（卒業見込の者を含む）

▷修業年限　1年　▷応募手続は農業改良普及所を経由して2月5日までに提出する。

▷経費　授業料は徴収しませんが寮費月額18,000円と父兄会費月額800円、免許等の取得費用は実費なお、道には研修資金15万円を限度で貸し付ける農業改良資金制度があります。

提出書類等くわしくは農業改良普及所か本校（中川郡本別町西仙美里㊳仙美里局9番）へおたずねください。

■1月の休日当番医

15日	今金町国保病院	☎②0221
16日	富田医院	☎②0324
23日	今金町国保病院	☎②0221
30日	岩間医院	☎②0057

■おことわり

新春、町長から町民のみなさまへの年始状は、戦礼廃止のため失礼させていただきました。

冬のスポーツを楽しく
スキーの事故防止

スキーは、雄大な環境の中で、自然に親しみ、自己の体力を高めるとともに、きびしい冬の寒さを克服して強くたくましく生きる気力を養成するスポーツとして、他の野外スポーツに比較して優れた特性をもち、今金町では従前から町民に親しまれております。

また、近年はスキー場の施設設備が整備され、交通機関も発達してきたこと、さらには「歩くスキー」の普及などもあって、スキー愛好者が年々増加しています。

しかし、スキー人口が増加するに伴い、リフトなどの施設利用時の事故や、スキー用具の使用法の不慣れによる事故も増加していることは残念なことです。

スキー事故の原因として一般的には、準備運動の不足や自己の能力過信、マナー不足、過労などがあげられますが、最近は、いわゆるハイブーツ型のスキー靴や締具に起因するものも目立っています。

したがって、スキーを行う際には、十分に自己の健康管理に努めるとともに、使用するスキー用具の事前の点検整備や、スキー場におけるきまりを守るよう心がけなければなりません。

とくに、スキー用具の購入に当たっては、販売店の専門家とも相談して自分の体格や技能に合致したものを選ぶことが大切で、いたずらに流行を追うことは避けなければなりません。

楽しいはずのスキーが、自分や他人の不注意によって、不快なものにならないよう、日ごろから安全には十分注意したいものです。

スポーツ障害保障に加入しょう

運動中に起きるケガが多くなっています。「自分だけはだいじょうぶ」と思っている人こそ要注意です。スポーツ傷害保険は、安い掛金で万一の保障をします。

十人以上のスポーツ団体や社会教育団体の構成員が加入でき、一人当り年間三百円の保険料で死亡（三百万円）のほか後遺障害、医療保険金として通院一日千円（九十日支給）入院一日千五百円（百八十日支給）が支払われます。

加入の手続きは総合体育館で受け付けていますので町民多数の方々の加入をおすすめいたします。

広報トピックス

■早くも一年生気取りのこどもたち

ことし町内の新入学児童は日進を除く十校で百五十三名が予定されておりますが、昨年の十二月二十日、今金小で新入学児童の準備教室が開かれ、百六名のこどもたちがおかあさんがたの心配をよそに知能テストを終え、早くも一年生気取りでボール遊びに元気いっぱいはしゃぎまわっていました。

■家庭婦人に好評のテニス教室

ことし高美公園内にテニスコートが完成することもあって、いま総合体育館ではママさんグループのテニス熱が盛りあがり、週一回開かれているテニス教室には二十人ほどの婦人が熱心に参加している。みんな初心者なので基本練習の繰り返しですが、広いコートに白球を打ちかえすホームは、なかなかの上達ぶりで、ママさんチームの誕生も間近かなようです。

住民の動態

	前月にくらべて
人口	9,494（+12）
男	4,687（+8）
女	4,807（+4）
世帯	2,705（+3）

（11月30日現在の住民基本台帳人口）

◇たんじょうおめでとう

小岩　忍（高慶　三女）種川
村本　英敏（照光　二男）田代
多田　由架（敏春　長女）神丘
多田　美紀（敏春　二女）神丘
藤倉　義昭（光義　長男）南町
伊藤　力（修　長男）南栄町

◇いつまでもしあわせに

米山　昇＝佐々木友子　大和町
鈴木　一雄＝若林　幸子　豊田
出口　清＝八重樫政子　鈴岡

◇おくやみもうしあげます

小川　ひさ　六十九歳　南栄町
菊地　ミ子　七十五歳　豊田
時岡　ツヤ　五十四歳　南栄町
阿部久四郎　八十四歳　花石

（十一月分）

発行・北海道今金町役場　編集／企画課広報係　印刷／㈱長門出版社　52・1・10